



今シーズンのインフルエンザ

2020 年第 12 週(3 月 16 日～22 日)のインフルエンザの定点当たり報告数は 0.42 で、流行の目安である定点当たり 1.00 を下回りました。今シーズン(2019-2020 年)の流行は、ピークの高さ及び流行期における定点当たり累積患者数(214.33)が、過去 10 シーズンと比較して最も小さい流行でした(図 1)。今シーズンの流行期間(2019 年 11 月～2020 年 3 月)の患者の年齢分布は、11 月～1 月は 15 歳未満が 75%であったのに対し、2 月以降は 83%に増加しました(図 2)。病原体定点で流行期間に毎週採取された検体から検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 が 450 件、AH3 が 6 件、B ビクトリア系統が 79 件で、B 山形系統は検出されませんでした。流行入りから 2 月中旬(第 8 週)までは AH1pdm09 が優勢で、2 月下旬(第 9 週)以降は B ビクトリア系統が優勢となりました(図 3)。

図1 インフルエンザ流行状況(埼玉県)

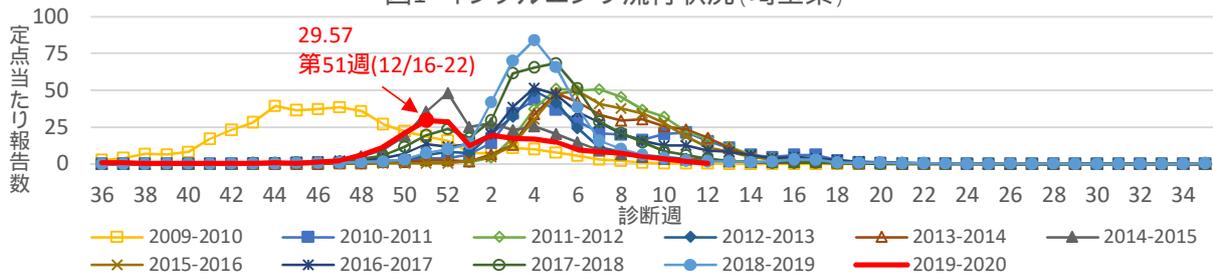


図2 流行期に報告された患者の年齢分布

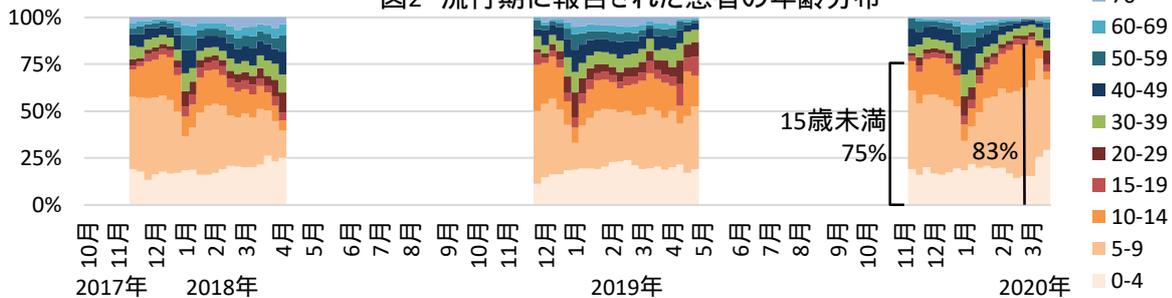
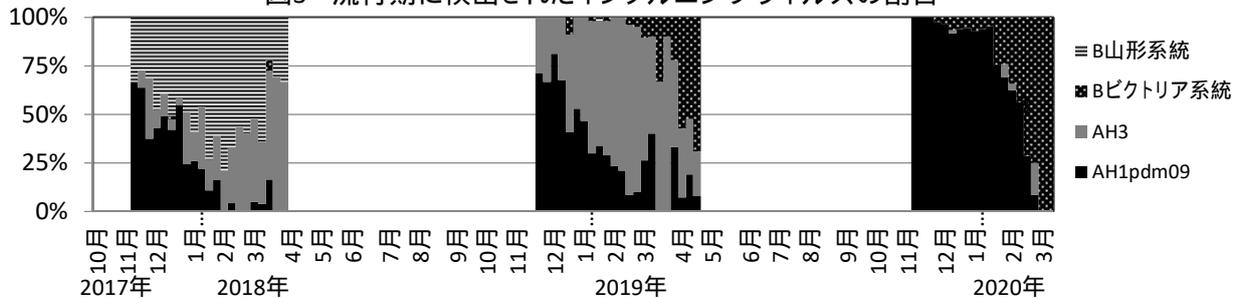


図3 流行期に検出されたインフルエンザウイルスの割合



患者の年齢分布と流行ウイルス型の分布の推移から、年齢によってウイルス型に対する感受性に違いがあったことが推測されました。病原体定点医療機関の先生方には引き続き検体採取(各月 1 検体)へのご協力をお願いします。